

(続紙 1)

京都大学	博士（地域研究）	氏名	坂井 紀公子
論文題目	ケニアの地方都市マチャコスにおける女性商人の営業実践に関する研究 —公設マーケットの整備と農産物流通に注目して—		
（論文内容の要旨） 本論文は、ケニアの地方都市マチャコスにおいて農産物を売買する女性商人を対象にして、仕入れから販売までの営業実践の全体像を記述するとともに、都市化が進行する状況のもとで、女性商人たちが、いかにして都市での生活世界を構築しているのかを明らかにすることを目的としている。分析にあたっては、都市への人口集中にともなって行政当局が商業施設や交通網を整備して、モノと人の流れに対する時間的・空間的な統制を強化していったことに対して、商人たちがいかなる対応をとったのかを重視している。 本論文は、序章と終章をふくむ6章から構成されている。第1章では、先行研究をレビューしつつ本論文がどのような視座から記述・分析をおこなうのかを論じている。アフリカにおいてはマーケットでの商売に女性が従事することが多い。また、現在のアフリカの諸都市では爆発的な人口増加・人口流入にともなって都市化が急速にすすんでいるが、その状況のもとで女性の経済活動や社会生活がどのように変化しているのかをジェンダーの視点から論ずる研究がおこなわれている。こうした研究は、都市において女性が新たな経済的・社会的機会を利用していることに注目すると同時に、ジェンダーにもとづく諸制限が女性に対して継続的に課せられていることも指摘している。本研究ではこうした視点にもとづいて、マーケットにおける女性商人の活動を記述・分析する。 第2章では、本研究が対象とするマチャコス市の公設マーケットの概要を記述している。このマーケットは現在、小売区画と卸売区画にわかれており、それぞれに約1200人と約200人の商人が農産物をはじめとする商売に従事している。利用者数は1日あたり約1万人である。このマーケットは、首都ナイロビから約60キロメートルと近距離にあるため、卸売商だけではなく、約半数の小売商がナイロビのマーケットで商品を仕入れている。そしてマチャコス市のマーケットでは、市当局が卸売／小売という区分を設定しているにもかかわらず、小売商のなかには大量に仕入れて別の小売商に販売する者が存在しており、卸売商と小売商のあいだには競合的な関係があった。 第3章では、まず、マーケット商人という職業が都市において女性が自活していくための重要な手段のひとつとなっており、女性商人たちは自己の職業を肯定的に認識・表象していることを明らかにした。そして、ジャガイモ卸売商の仕入れと販売方法に焦点をあててその特徴を分析したところ、彼らは「共同仕入れ」によって経費を削減し、競合的な小売商とのあいだでは、扱うジャガイモの種類を変えて差異化を図っていた。また、個々の卸売商の営業実践を比較すると、薄利多売を指向する人や、			

高めの値段を設定しつつきめ細やかなサービスをする人などの差異が存在した。すなわち商人たちは客の多様なニーズを敏感に察知し、微細な差異化を図りつつ柔軟に商売をおこなっていた。

第4章では、都市化にともなってマチャコス市当局がマーケットの売場と営業規定を整備し、商業活動に対する管理を強化していった過程と、それに対する商人の対応を記述・分析した。特にジャガイモ卸売商の売場は6年間に3回も強制的に移転され、営業時間や販売単位、そしてさまざまな課徴金などに関する規定も変更が繰り返された。卸売商は、市当局に対する陳情を繰り返したり、現場職員との交渉をとおして規定を変更させ、その柔軟な運用方法を勝ちとるなど、積極的な働きかけをしてきたことを明らかにした。

第5章ではひとりのジャガイモ商のライフヒストリーを詳述することをとおして1960～90年代のケニアにおける都市化のプロセスの一端を明らかにした。そして、この女性の営業実践には、経済合理性への指向だけではなく、対人関係への配慮など、生活全般に対する価値観が tydよく表出されていることを論じた。

第6章では、都市化の過程において女性商人たちの生活がどのように構築されてきたのかを包括的に論じた。地方行政による都市整備の一環としてマーケットの移動や営業規定の変更が繰り返されるなかで、女性たちは主体的にそのプロセスに関与し、複雑に差異化された流通形態をつくりあげてきた。そして彼らの生活全体に目を向ければ、都市において女性が自活しつつ子供を産み育て、自らの土地と屋敷を購入したり、あるいは夫や家族からある程度自立した生活を営むなど、農村部では想定できない生活世界が構築されていた。このように、新たなライフスタイルを切り開く女性たちの実践を明らかにすることは、アフリカにおける都市化の過程を理解するための重要な要素のひとつとなっていることを指摘した。

(論文審査の結果の要旨)

本論文の目的は、ケニア共和国の地方都市マチャコスの公設マーケットで農産物を売買する女性商人を事例として、その営業実践を詳細に記述するとともに、都市化の進行にともなって、女性たちが農村部とは異なる新しい社会関係を構築する過程を明らかにすることである。

アフリカのマーケットで活躍する女性商人の存在は早くから注目され、重要な研究対象となってきた。また、人口の都市集中にともなって、マーケット商や行商といった商業活動に従事する女性が、どのような経済的役割をはたしているのか、そして女性の社会生活はどのように変化しているのかは、現代のアフリカ都市研究における主要な研究テーマのひとつとなっている。ケニアでは 1980 年代になってから農村部と地方都市を結ぶ交通網が整備されるとともに、開発の地方分権化が謳われ、地方自治体が商業基盤の強化にとりくんだ。そして農村部から都市部へと人口が流入し、さまざまな雑業や零細な自営業をいとなむ人びとが増加していった。本論文は、こうした歴史的状況をふまえて、マチャコスの公設マーケットで商売をいとなむ女性商人たちの営業実践と、その女性たちが構築する新しい社会関係を解明したものである。

本論文は、以下の三つの学術的な貢献によって、高く評価することができる。第一には、女性商人たちの商品の仕入れと販売の実態を詳細な定量的データを収集して明らかにしたことである。とくに、本論文の主たる対象であるジャガイモ卸売商人 12 人については、1 ヶ月間 (10 回) にわたる仕入れと販売の量と金額に関する詳細な資料と、各人がある 1 回の仕入れのときに購入したジャガイモを、誰に・どんな単位で・どれくらいの量を販売したのかに関する綿密な資料を丹念に収集して提示している。農作物の流通について、このような膨大な資料を収集・分析した研究はあまり例がなく、これは、地道に積み重ねたフィールドワークにもとづく地域研究のおおきな成果である。

本論文の第二の貢献は、上記の定量的なデータにもとづいて、ジャガイモ卸売商人のあいだの営業をめぐるさまざまな差異を、克明に明らかにしたところにある。薄利多売を指向する人や、価格を高め設定しているがこまやかなサービスをする人、掛け売りをする人、あるいはほかの商人とは異なる種類のジャガイモを販売する人など、個々の商人は客の多様なニーズを把握しつつ微細な差異化を図っていることを具体的に解明した本論文の功績はおおきい。

本論文の第三の貢献は、卸売と小売というふたつの商業形態の差異がダイナミックに構築されることを明らかにした点である。売り手は、自分が利用できる資本や労働力に応じて多様な営業戦略をとり、買い手の側にもまた、どんな農作物をどのような量で購入するのかに関するさまざまな必要性が存在する。そして農作物の流通は、卸売商人→小売商人→消費者といった単線的なものにはならない。それにもかかわらずマチャコス市当局は、商業活動を空間的・時間的に管理するために、卸売と小売を空間的に分離するとともに、営業時間や販売単位、さまざまな課徴金などに関する営業

規定を導入して、統制の強化をはかった。本論文は、こうした状況のもとでマーケット商人たちが、市当局とのあいだで粘りづよい交渉を繰り返し、自分たちの営業実態をおおきく変えずにすむ環境をつくり出していった過程を詳細に明らかにしたが、これは高い評価に値する。

以上のように本論文は、地方都市のマーケットという変動の激しい環境に生きる女性商人たちの実践を、長期にわたる現地調査によって収集した膨大なデータにもとづいて克明に明らかにしており、これは非常に優れた地域研究の成果である。

よって、本論文は博士（地域研究）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成 22 年 2 月 4 日、論文内容とそれに関連した事項について試問した結果、合格と認めた。